カだめしプリント パート4 中学校二年 ①

年　組　番　名前

1 漢和辞典で「頭」という漢字の意味を調べると、次のように出ていました。あとの**ア**と**イ**に使われている「頭」の意味を、次の**1**から**5**の中からそれぞれ**一つ**選びなさい。

【漢和辞典】

【頭】 **1** 首から上の部分。 **2** 上に立つ者。 **3** はじめ。 **4** 動物を数える単位。 **5** ほとり。付近。

ア 街頭　**イ** 年頭

答え【ア】 **5**

答え【イ】 **3**

2 次の①の文を、意味は変えずに「私」を主語にした文に書き換えると、「祖母が」、「頼んだ」はそれぞれどのようになりますか。②の文の A と B に当てはまる言葉を書きなさい。

① **祖母が私に庭の草取りを頼んだ。**

② **私は祖母 A 庭の草取りを B 。**

答え【A】 **【例】に**

答え【B】 **【例】頼まれた。**

3 山本さんは、前の書写の時間に、行書で「綿雲」という文字を書きました。今日は、そのときの**【先生の助言】**を生かして書き直すことができました。山本さんが書き直したものとして最も適切なものを、あとの**1**から**4**までの中から**一つ**選びなさい。

【前の書写の時間に書いた文字】

綿雲

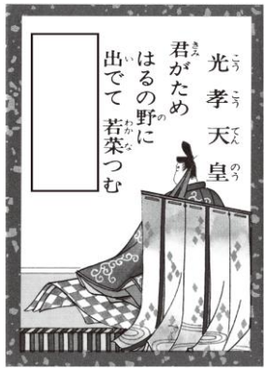
【先生の助言】

字形を整えて書くことができましたね。行書の特徴である「点画の連続と省略」に気を付けて、「雲」を書いてみましょう。「綿」と「雲」の文字の中心がずれているので、そろえて書くと全体が整って見えますよ。

1 綿雲　2 綿雲　3 綿雲　4 綿雲

答え **3**

4 次の百人一首の札の □ に当てはまるものを、**【現代語訳】**を参考にして、あとの**1**から**4**までの中から**一つ**選びなさい。



【現代語訳】

あなたにさしあげようと思って、
春の野に出て若葉をつんでいる
この私の袖に、まだ雪がちらちら
降りかかっているのですよ。

1 富士の高嶺に 雪はふりつつ

2 わが衣手に 雪はふりつつ

3 ふしのたかねにゆきはふりつつ / ふりゆくものはわが身なりけり / ふりゆくものはなりけり

4 よしのの里にふれる白雪 / わかころもてにゆきはふりつつ / よしののさとにふれるしらゆき

答え **2**

5 次の三つの漢字は、部首が同じで、意味の上でも共通点があります。共通点の説明として最も適切なものを、あとの**1**から**4**までの中から**一つ**選びなさい。

情　慣　快

1 土地の形状に関連する意味を表す。
2 心の動きに関連する意味を表す。
3 建物や部屋に関連する意味を表す。
4 言葉を使った活動に関連する意味を表す。

答え **2**

6 西村さんは、劇の発表会のポスターの下書きをしました。分からなかった漢字は、あとで調べようと思って、ひらがなで書きました。次の問いに答えましょう。

☆劇の発表会のお知らせ☆

つゆくさ小学校６年１組一同

わたしたち６年１組では，劇の発表会をすることになりました。

〈発表する作品〉『海と鳥』（谷口　進　作）

1 発表の日 ： 平成20年６月４日(水)

2 時　　間 ： 午後２時から午後３時まで

（**かいじょう**は、 30分前）

3 場　　所 ： つゆくさ小学校体育館

◆お**かえ**りのときには，感じたことや気づいたことをアンケートに書いてください。

一 ――部①「**かいじょう**」を辞書で調べてみたところ、次のように書いてありました。

ア【　　】 会議や集まりなどが行われる場所。
イ【海上】 海の上。海面。
ウ【　　】 集会や行事などをする場所を開いて人を入れること。
エ【階上】 二階以上の建物の上の階。

(1) **ア**と**ウ**の【　】に当てはまる漢字をていねいに書きましょう。

ア【会場】

ウ【開場】

(2) ――部①「**かいじょう**」を漢字に直すと、**ア**から**エ**までのどの漢字になりますか。正しいものを**ア**から**エ**までの中から一つ選んで、その記号を書きましょう。

答え **ウ**

二 ――部②「**かえ**」を漢字に直して、ていねいに書きましょう。

答え **帰**

力だめしプリント パート4 中学校二年 ②

年	組	番	名前

7 松本さんの学級では、新入生に向けて、これからの学校生活の参考となるように「今、夢中になっていること」という題で文章を書くことになりました。次は、**【松本さんが書いた下書き】**です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【松本さんが書いた下書き】

今、夢中になっていること、それは部活動です。

中学校に入学して、始めて吹奏楽部の生の演奏を聞いたとき、体中に響いてくる音の迫力に圧倒されました。そして、迷わず吹奏楽部に入部しました。その後、私の担当はフルートに決まりました。それからは、自分でも驚くほどフルートに夢中になっています。

先日、そばで聞いていた友達から「うまくなったね。」と言いました。そのとき、音が出るまで苦労したけれど、あきらめずに続けていてよかったと思いました。

今、私たちは全国大会出場に向けて練習していて、三年生にとって最大の目標です。

皆さんも中学校生活の中で、自分が全力で打ち込めることを探してみてください。きっと毎日が楽しく充実したものになるはずです。

一 下書きを読み直した松本さんは、〜〜線部「そばで聞いていた友達から『うまくなったね。』と言いました」の部分の「友達から」と「言いました」との言葉の関係が不適切なことに気付きました。本文中の推敲の仕方にならって、「言いました」の部分を適切に書き直しなさい。

答え **【例】言われました**

二 ——線部「今、私たちは全国大会出場に向けて練習していて、三年生にとって最大の目標です。」には、二つの内容が含まれています。意味は変えずに**二つの文**に分けて書きなさい。なお、二文めには「目標です」に対応する主語を補いなさい。

【一文め】**【例】今、私たちは全国大会出場に向けて練習しています。**

【二文め】**【例】全国大会出場は、三年生にとって最大の目標です。**

8 次は、中国の『戦国策』という本にある話の一部分**【A】**と、その話についての解説**【B】**です。これらを読んであとの問いに答えなさい。

【A】

虎が森のなかで狐をつかまえ、さっそくムシャムシャやろうとすると、狐がいった。

「これこれ虎よ。わしは、百獣の王として、天からこの森につかわされたものじゃ。そのわしを食うおまえは、天にさからうつもりか？」(注1)

虎はどぎもをぬかれたが、まさか、こんな弱そうな獣が王とは思えないので、首をかしげてしまった。

それを見て、狐はつづけた。

「わしのいうことが本気にできないのじゃな。よし、ではおまえは、わしのあとについてきてみるがよい。森の獣たちが、わしに会ってどうするか、よく見とどければわかるじゃろう。」

虎はなるほどと思い、狐のあとにくっついていった。

森の獣たちは虎の姿を見て、みな命からがら逃げだすのであった。狐がとくとくとして、(注2)

「どうじゃ、わしをおそれぬものがいるか？」

というと、虎はおそれいって答えた。

「全く、あなたのご威風はたいしたものです。すっかりお見それいたしました。」(注3)

（村山孚『中国おもしろ古典語典』による。）

（注1）どぎもをぬかれた＝非常に驚かされた。（注2）とくとくとして＝得意げな顔をして。（注3）＝威風のある様子。

【B】

当時の中国は、七つの国が天下を争っていた。その中の一つ、楚の国の王様は、強大な力をもっていた。しかし、実質的な指図をしていたのは、王様が任命した宰相（王様を補佐する人）だった。ある日、王様が家臣たちに、

「他の国々では、わたしよりも宰相をおそれているというわさを聞いているが、本当なのか。」

と尋ねた。これに対して、魏の国から来ていた江乙という人が答えるときに用いたのが**【A】**のたとえ話である。

さらに、江乙はこのたとえ話のあとに、こう言った。

「王様が治めている領土の広さや軍隊の力には、他の国のだれも及びません。王様は、それらをすべて宰相に任せていらっしゃいます。それゆえに、他の国々が王様よりも宰相をおそれているなどというわさも立つわけですが、他の国々が本当におそれているのは、宰相ではなく王様の強大な力なのです。」

一 ——線部**【A】**のたとえ話」とありますが、江乙は、だれのことを「虎」に、だれのことを「狐」にたとえたのですか。次の**1**から**4**の中から、最も適切なものをそれぞれ**一つ**選びなさい。

1 宰相　**2** 江乙　**3** 王様　**4** 家臣

答え【虎】 **3**　答え【狐】 **1**

二 **【A】**のたとえ話から「虎の威を借る狐」という言葉が生まれました。次の**1**から**4**のうち、この言葉の意味として最も適切なものを**一つ**選びなさい。

1 他人の弱さを利用して都合よく事を進めること。
2 他人の権力や権勢などをかさに着ていばること。
3 他人の行動をよく見て自分の行動を改めること。
4 他人の失敗や苦労に対し心からなぐさめること。

答え **2**

9 本の目次について、あとの問いに答えなさい。

一 目次の特徴と目次を使ってできることの例として最も適切なものを、次の**1**から**4**までの中から**一つ**選びなさい。

1 本に出てくる重要な語句が五十音順に並べられているので、必要な情報を簡単に見付けることができる。
2 本の構成やおおまかな内容が示されているので、必要な情報がどこにあるのか見当を付けることができる。
3 筆者が本を書いたきっかけやねらいなどが書かれているので、筆者の伝えたいことを的確につかむことができる。
4 筆者、発行年月日などがまとめて記されているので、だれがこの本を書いていつ出版されたのかを知ることができる。

答え **2**

二 次のページに示すのは、『私たちと水』という本の目次です。この本を用いて、「お風呂の水を洗濯に使うなどの身近な水の節約例」について調べたいと思います。調べたいことは、この本の第何章に書かれていると考えられますか。最も適切なものを、次の**1**から**4**までの中から**一つ**選びなさい。

1 第一章　**2** 第二章　**3** 第三章　**4** 第四章

答え **4**

私たちと水　【目次】

第一章　私たちの水はどこから来るのか……2
第一節　地上から——川を流れてくる水……2
第二節　地下から——わき水や井戸水……15
第三節　空から——雨水……32
第二章　私たちの周りで水はどのように使われているのか……48
第一節　飲み水……48
第二節　作物を育てる水……58
第三節　工業に使う水……69
第三章　私たちの水はどこへ行くのか……81
第一節　処理される下水……81
第二節　川や海に戻る水……97
第四章　私たちは水とどう付き合っていくべきか……112
第一節　限りある水資源……112
第二節　自治体や企業での取り組み……132
第三節　個人や家庭での取り組み……150

カだめしプリント パート4 中学校二年 ③

年	組	番	名前

10 中学生の川名さんは、小学生に「二ひきの蛙（かえる）」を朗読することになりました。次は、**【朗読する物語】**と朗読するために気を付けることを書いた**【川名さんのメモ】**です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【川名さんのメモ】

○……朗読の仕方の工夫

▼……理由

○ 「黄色だね」のあとに間を取って、からかうような口調で読む。

▼ はたけでばったりゆきあった二ひきの蛙が、けんかを始めるきっかけになる言葉だから。

○ 高く大きな声で、勢いよく一気に読む。

▼ けんかの勝負をつけることにこだわっている一方で、もうすぐ冬のやってくることを思い出して慌てているから。

○ 呼びかけるように、句読点ではっきりと区切って読む。

▼ 待ちかねていた春が来て、土の上に出てみると、けんかの相手である黄色の蛙がまだ起きていなかったから。

○ 「わすれたか」の「か」を挑発するように強く読む。

▼ 冬眠の前に「わすれるな」と言っていた黄色の蛙がのんびりと出てきたので、けんかのことを思い出させようとしているから。

○

▼

【朗読する物語】

二ひきの蛙　　新美（にいみ）南吉（なんきち）

緑の蛙と黄色の蛙が、はたけのまんなかでばったりゆきあいました。

「やあ、きみは黄色だね。きたない色だ。」

と緑の蛙がいいました。

「きみは緑だね。きみはじぶんを美しいと思っているのかね。」

と黄色の蛙がいいました。

こんなふうに話しあっていると、よいことは起こりません。二ひきの蛙はとうとうけんかをはじめました。

緑の蛙は黄色の蛙の上にとびかかっていきました。この蛙はとびかかるのが得意でありました。

黄色の蛙はあとあしで砂をけとばしましたので、あいてはたびたび目玉から砂をはらわねばなりませんでした。

するとそのとき、寒い風がふいてきました。

二ひきの蛙は、もうすぐ冬のやってくることをおもいだしました。蛙たちは土の中にもぐって寒い冬をこさねばならないのです。

「春になったら、このけんかの勝負をつける。」

といって、緑の蛙は土にもぐりました。

「いまいったことをわすれるな。」

といって、黄色の蛙ももぐりこみました。

寒い冬がやってきました。蛙たちのもぐっている土の上に、びゅうびゅうと北風がふいたり、霜柱が立ったりしました。

そしてそれから、春がめぐってきました。

土の中にねむっていた蛙たちは、せなかの上の土があたたかくなってきたのでわかりました。

さいしょに、緑の蛙が目をさましました。土の上に出てみました。まだほかの蛙は出ていません。

「おいおい、おきたまえ。もう春だぞ。」

と土の中にむかってよびました。

すると、黄色の蛙が、

「やれやれ、春になったか。」

といって、土から出てきました。

「去年のけんか、わすれたか。」

と緑の蛙がいいました。

「待て待て。からだの土をあらいおとしてからにしようぜ。」

と黄色の蛙がいいました。

二ひきの蛙は、からだから泥土をおとすために、池のほうにいきました。

池には新しくわきでて、ラムネのようにすがすがしい水がいっぱいにたたえられてありました。そのなかへ蛙たちは、とぶんとぶんととびこみました。

からだをあらってから緑の蛙が目をぱちくりさせて、

「やあ、きみの黄色は美しい。」

といいました。

「そういえば、きみの緑だってすばらしいよ。」

と黄色の蛙がいいました。

そこで二ひきの蛙は、

「もうけんかはよそう。」

といいあいました。

よくねむったあとでは、人間でも蛙でも、きげんがよくなるものであります。

（新美南吉「二ひきの蛙」による）

一 この物語に描かれている季節を、次の**1**から**4**までの中から**すべて**選びなさい。

1 春　**2** 夏　**3** 秋　**4** 冬

答え
1，3，4

二 川名さんは、緑の蛙が話した言葉の朗読の仕方について考えています。あなたなら、――線部「『やあ、きみの黄色は美しい。』」をどのように工夫して朗読しますか。あなたの考える朗読の仕方の工夫とその理由を、次の**条件1**から**条件3**にしたがって書きなさい。

条件1 **【川名さんのメモ】**の書き方を参考にし、○には朗読の仕方の工夫を、▼にはその理由を書くこと。

条件2 ▼は、物語の内容を踏まえ、物語の中の言葉を使って書くこと。

条件3 ○は、**十五字以上、三十字以内**で、▼は、**四十字以上、六十字以内**で書くこと。

○

【例】	さ	わ
わ	る	よ
な	う	に
声	に	、
で	、	高
読	高	く
む	く	大
	大	き
	き	伝

▼

【例】	緑	の	蛙	も	黄
色	の	蛙	も	池	の
水	で	泥	土	を	洗
い	落	と	して	体	だ
け	で	は	なく	気	持
ち	、	もさっぱりしたから。			

カだめしプリント パート4 中学校二年 ④

年	組	番	名前

11 上野さんの学級では、マナーに関する本を読んで、自分の考えをまとめることにしました。上野さんは一冊の本を読んだ後、本の**「はじめに」**と**「おわりに」**とを合わせて読んで、内容を確かめることにしました。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

※段落のはじめにある数字は、その段落の番号を示しています。

はじめに

1 みなさんは、家でも学校でも「食べるときには、いただきますと言いなさい」「電車ではお年寄りに席を譲りなさい」などと、教わりますね。もしかしたら、学校のクラスで「こういうときは、どうしたらいいのかな」とマナーやルールを考える授業もあるかもしれません。みなさんは、そういうとき、正しいマナーがわかるでしょうか。

2 正しいマナーなんて、簡単ですね。誰でもわかることばかり。みなさんも、きっと、心のなかで「そんなこと、あたりまえじゃん」とおかしく思いながら答えているのではないでしょうか。

3 でも、よく考えてみてください。あたりまえのマナーを、あなたは、家や学校でほんとうにやっていますか。頭ではわかっていても友だちに「ごめんね」と言えなかったり、宿題をやろうやろうと思いながらテレビを見ていたりしませんか。

4 マナーは、知っているだけでは足りないのです。ちゃんと行動して、言葉にだして、できるようになって、はじめて「マナーOK」なのです。「知識一〇〇点、行動〇点」よりも、「知識五〇点、行動五〇点」の人のほうが、ずっと立派です。

おわりに

1 最初に、マナーは実践するのがたいせつだ、と書きました。つまり、知っているだけでは足りなくて行動するのがだいじなんだよ、ということでした。ところが、さらにマナーやルールには、もうワンランク上のむずかしい点があるわけです。※1

2 なぜ、むずかしいのでしょう。それは、マナーやルールは、自分だけのことではなくて、人と人との関係を支えるものだからです。大人の用語で言えば、「社会的な人間関係の潤滑油※2」だから、と言えます。

3 マナーは自分中心ではなくて、相手中心に考える気持ちからはじまることなのです。だから自分の気持ちや行動だけを考えていては、相手とずれることも出てくるのでしょう。相手のことを思い、相手の様子に気づくことから、人と人とが仲よくすごすために役に立つ、すてきな行動がはじまるのです。

（辰巳渚　監修『これだけは知っておこう！　マナー・エチケットの基本60』による。）

※1「ワンランク」……一つの段階や順位。

※2「潤滑油」……物事をうまく運ぶためのなかだちとなるもののたとえ。

一 上野さんは、**「はじめに」**の第**1**段落の表現がくふうされていることに気付きました。そのくふうを説明したものとして、もっともふさわしいものを次の**1**から**4**までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 筆者が失敗した体験をもとにして、マナーのむずかしさを考えさせている。

2 筆者の体験と読者の体験のちがいを比べて、マナーの大切さを示している。

3 筆者の体験を思い出させて、マナーを身近な問題としてとらえさせている。

4 読者が体験したマナーのまちがいを示して、具体的な行動の方法を教えている。

答え **3**

二 上野さんは、**「はじめに」**と**「おわりに」**の中に書いてある筆者の考えを次のようにノートにまとめました。あとの問いにこたえましょう。

【上野さんのノートの一部】

①「はじめに」の中に書いてある筆者の考え

「知識一〇〇点、行動〇点」よりも、「知識五〇点、行動五〇点」の人のほうが、ずっと立派です。

マナーについての知識は十分であるのに、全く行動しない人よりも、

A

人のほうが立派である。

②「おわりに」の中に書いてある筆者の考え

マナーやルールには、もうワンランク上のむずかしい点があるわけです。

さらに、マナーやルールのむずかしい点は、

B

上野さんは、ア――部を自分の言葉で書きかえることにしました。A の中に入るふさわしい内容を筆者の考えに合わせて書きましょう。

答え **【例】マナーについての知識が不十分であっても、まずは行動する。**

(2) 上野さんは、イ――部をよく理解するために書きかえることにしました。B の中に入るふさわしい内容を筆者の考えに合わせ、書き出しの言葉に続けて、**六十字以上八十字以内**にまとめて書きましょう。

さらに、マナーやルールのむずかしい点は、

【例】人と人との関係を支えているものだから、自分の気持ちだけを考えて行動していては、相手とずれてしまうという点である。